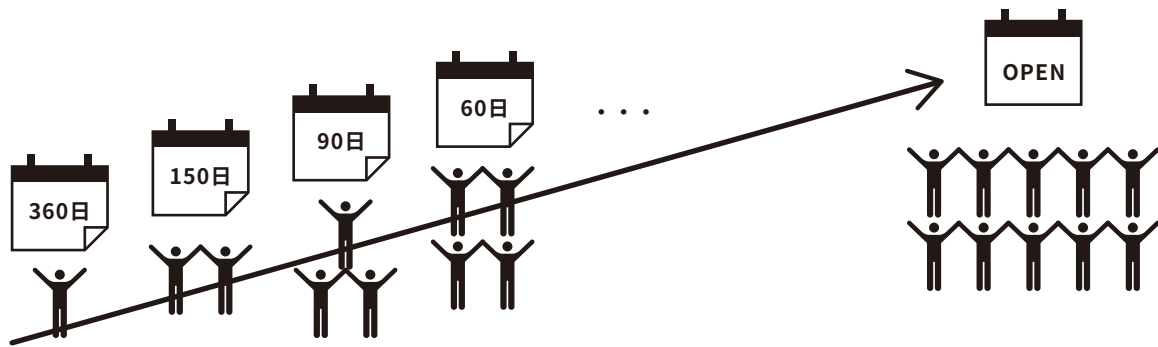


「じわじわキャンペーン」 開館前からプロの公演で文化を育んでいくプレイベント



事業内容

これまで芸術文化活動に関心のなかった市民がそれらの活動に興味を持つためには、まずはプロの公演を体験し本物の感動を味わうことが重要です。そのため、新しい施設の開館前からプレイベントとしてプロの公演を市内各地で行っていくことで、市民が文化芸術活動に親しむ機会を創出することや、新しい施設への期待感を高めることにつながります。また、このプレ企画は、単に市民の文化芸術活動への素地を育んでいくのみではなく、一方の運営者にとっても、開館前にあらかじめ市民のニーズを把握し制作プロセスの練習になることを意図しています。

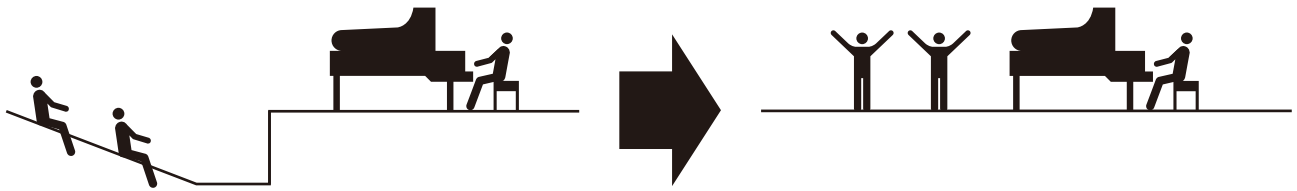
実施することで得られる効果・可能性

- 運営者の開館前からの事前実践経験
- 運営者の市内施設へのネットワーク構築

実現する上での課題

- 運営者・運営組織の早期決定
- 市内施設での公演へのプロ側の需要

「ふらっとコンサート」 プロと市民が対等に芸術を楽しめるイベント



事業内容

文化芸術活動を愛好家向けの崇高なものだと捉える気運は未だ根強く、文化芸術活動の敷居の高さが新しい施設への気軽な来訪を阻害する懸念もあります。新しい施設は全ての市民が平等に利用できることを目指す公共施設の基本に立ち返り、誰もが気軽にふらっと訪れるようにできることが重要です。そこで、新しい施設では苫小牧出身の若手ミュージシャンが鑑賞者を巻き込んでいく参加型の演奏会や市民の楽器体験などの企画を積極的に取り入れていきます。文化芸術活動の作り手と受け手の境界をなくし、プロと市民が対等(フラット)な関係で文化芸術活動に親しむことのできるイベントは、施設そのものへの敷居の低さを演出することができます。

実施することで得られる効果・可能性

文化芸術活動への気軽な参加機会の提供

実現する上での課題

実施主体の存在

「〇×デー」

各機能の個性を際立たせる特集イベント



毎月第●×曜日



毎月第▲○曜日



毎月第△■曜日



毎月第▼□曜日

事業内容

新しい施設では、複合化により様々なジャンルの催しが可能となり、バンド・オーケストラ・バレエ・ヒップホップダンスなど多数のジャンルが一つの施設を利用することを活かしたイベントを行っていくことが必要です。一方で、複合化に伴い、各諸室の予約が重複し、利用団体によっては施設が使いづらくなってしまう懸念もあります。

そこで、映画館にある〇×デーのようなテーマを持たせた催しや割引料金サービスを参考に、複合施設だからこそ可能な多様なイベントの創出を検討していきます。また、テーマとなったジャンルの利用団体に対しては諸室予約の優先等を行い、全てのジャンルの団体が偏りなく施設を利用することが可能になります。

実施することで得られる効果・可能性

複合施設独自の個性創出

芸術分野のジャンル間の交流促進

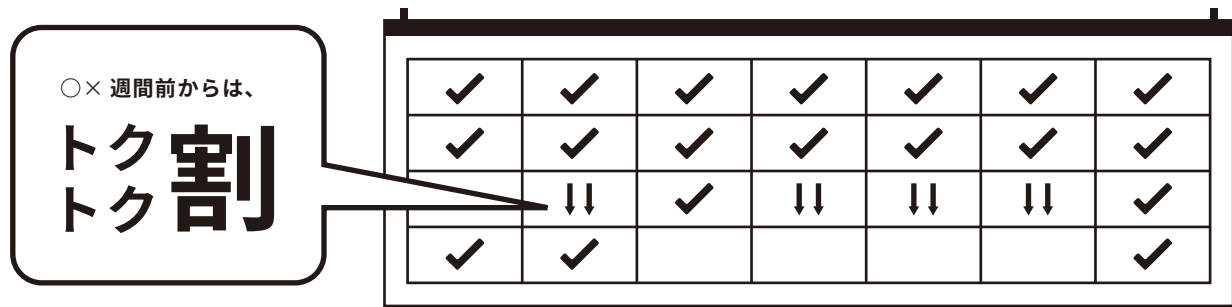
実現する上での課題

優先利用システムの構築・ルールづくり

イベント実施者の存在

「トクトク予約」

利用料金を徐々に下げ利用者の間口を広げる予約サービス



事業内容

文化芸術活動に関心が薄い市民にとって、施設の利用料金やチケット料金など費用の高さは大きな問題です。そこで、可児市文化創造センターで行われている独自のチケット割引システムを参考に、新しい施設では諸室や公演の予約料金を、当日が近づくにつれ徐々に低価格にしていくサービスを検討します。このようなサービスは、利用者にとっては予定を合わせやすいメリットがあり、一方の運営者にとっても空いた席をもう一度売り直せるという、利用者・運営者双方が win-win の関係になることができるといいます。

実施することで得られる効果・可能性

稼働率の向上

実現する上での課題

諸室利用・チケット購入などの予約システムの構築・ルールづくり

「カルチャーフェスティバル」 市の魅力をアピールする祭りと連動したイベント



事業内容

新しい施設は市民の芸術活動の場としてのみではなく、地域活性化の一端を担ったり苫小牧の魅力を発信したりと苫小牧市民が誇りを持てるような地域に根付いた施設にしていくことが重要です。そこで、すでに行われている祭りや連動したイベントを行うことで、地元市民のための施設づくりや地元で根付いた活動を展開していきます。また、このイベントは市民のみを対象にするのではなく、お祭りを目的に訪れた観光客に対しても苫小牧の魅力を発信するよい機会です。祭りや連動したイベントの実施をとおして、新しい施設がよりよいまちづくりへ積極的に貢献することを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

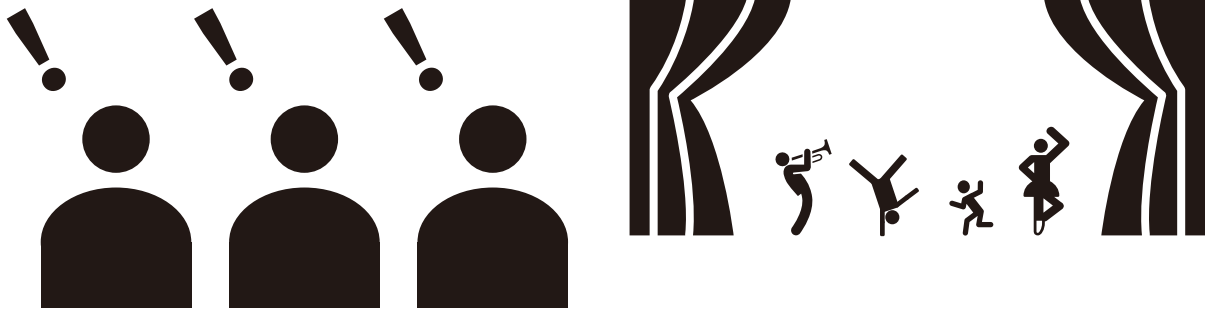
一度も訪れたことのない市民への来訪のきっかけを提供
祭りを通じた芸術分野のジャンル間をまたいだ交流の促進

実現する上での課題

既存のお祭りへの介入余地の有無

「びっくり箱プロジェクト」

当日までプログラムが明かされることのない年に一度のビッグイベント



事業内容

施設独自のイベントは、その施設の個性を創出し他の施設との差別化を図ることができます。新しい施設は複合施設であり、様々なジャンルの文化芸術活動が一つの施設に集合していることが強みとなります。そこで、新しい施設では芸術祭やアートフェスティバルなどのイベントをアレンジし、演奏会の日程は告知をするが当日までプログラムが明かされることのない施設独自のイベントを行っていくことを検討します。イベントの仕組みは金沢市民芸術村の市民ディレクターの仕組みを参考に、イベントの企画から実施まで市民が積極的に関与していくことを目指します。

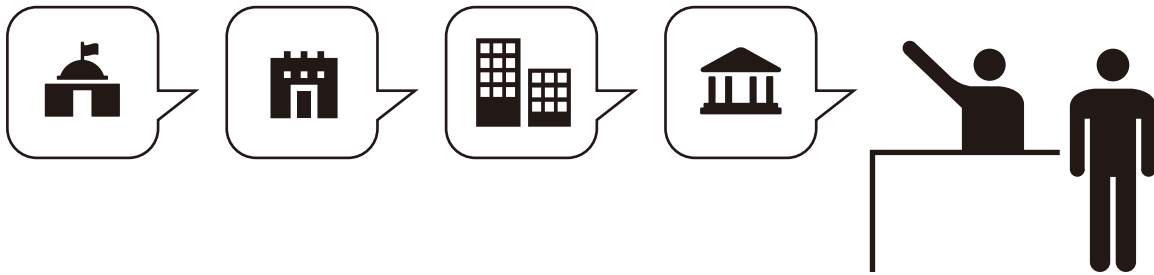
実施することで得られる効果・可能性

施設の目玉となるイベントの創出
市民の企画力・実行力の育成

実現する上での課題

市民ディレクターの人材確保

「施設コンシェルジュ」 市内施設のネットワークを活かした施設利用の相談サービス



事業内容

既存の利用予約のシステムは予約する施設に直接来訪し申請を行うものであり、先に予約が埋まってしまった場合は他の手段に頼ることができず八方塞がりになってしまう状態です。市内の公共施設には会議室や練習室などを備えた施設はいくつか存在しており、新しい施設の建設にあたって、積極的にそれらのネットワークを構築していく必要があります。一か八かではなく、予約が重複した際にも代替案が検討できたり、その他のサービスを提供したりといった予約専門のスタッフを配備することで、子どもや高齢者を含めた全ての市民が等しく市内の公共施設を有効に利用できることを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

市内公共施設の有効活用
市民の公共サービスへの満足度向上

実現する上での課題

優先利用システムの構築・ルールづくり
イベント実施者の存在

「苫小牧アワード」 市外施設との差異化を図る独自のコンクール



事業内容

施設独自の基準や審査を設けたコンクールは、その施設が持つ固有の価値を創出し、他の施設との差異化を実現します。例えば、千代田区立内幸町ホールが主催事業として行われているシャンソン・コンクールは、単なる審査会のみではなく、コンクールを通じて参加者の普段の活動やひととなり伝えることも目的としています。その結果、参加者が一つの舞台をつくりあげる当事者の一員になることができ、このコンクールをきっかけに歌手同士のつながりができたといいます。この取組を参考に、苫小牧独自の「苫小牧アワード」を定期的で開催していくことで、苫小牧の文化力を底上げしていくという、周辺施設の中での施設の役割を明確にすることを目指します。

実施することで得られる効果・可能性

施設独自のイベントの創出
市内の文化芸術活動家の交流促進

実現する上での課題

審査員の選出など運営者の企画力
スポンサーの捻出